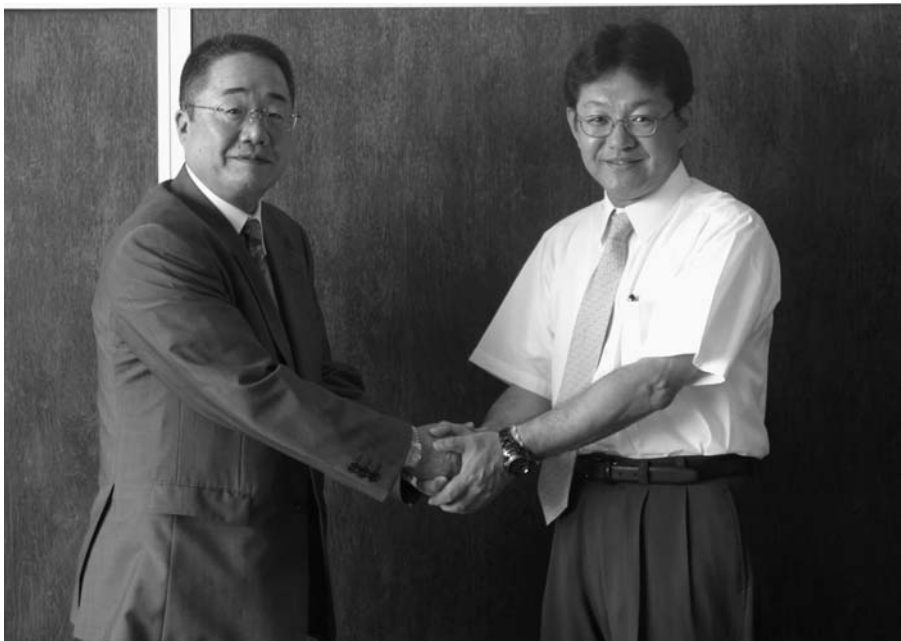


登米市のできごと
おしらせします！

TOPICS

災害時の応援・物資供給協力体制を万全に

市内建設業団体・みやぎ生協と協定を締結



災害時の協力を誓い、渡辺会長（左）と布施市長が固い握手を交わしました

7月29日、災害時の応援・応急生活物資の供給協力について、市内の建設業者143社で構成する登米市地域災害対策協議会（渡辺光悦会長）、みやぎ生活協同組合（芳賀唯史理事長）とそれぞれ協定を結びました。

締結式は、市役所迫庁舎で行われ、布施市長が渡辺会長、芳賀理事長と協定書を取り交わしました。

登米市地域災害対策協議会との協定は、地震や風水害などによる災害が発生、または発生の恐れがある場合、①応急復旧②被害拡大防止③各種施設の巡視を、市が協議会に協力を要請できるという内容です。

布施市長は「災害時には、市民による自助と行政などによる公助の連携が非常に重要。官民一体となった体制づくりに取り組んでいきたい」と話しました。

また、みやぎ生活協同組合との協定は、地震や風水害などによる災害が発生、または発生の恐れがある場合、応急生活物資（飲料水、食料など）の供給協力を要請できる内容となっています。

みやぎ生協は、一昨年に発生した「宮城県北部連続地震」

で、被災地に飲料水や菓子などの食料援助や炊き出し、組合員へのお見舞い活動を実施しています。

また、「新潟中越地震」の際も、協定を締結している自治体からの要請を受け、物資を届けるなど、被災地への援助を行っています。

芳賀理事長は「市内2万6千世帯のうち、1万3、800世帯がみやぎ生協の組合に加入しており、組合員には高齢者や体の不自由な方がいます。今後もしごとというときに備え、職員全員で対応していきたい」と話していました。



協定書にサインする芳賀理事長（左）と布施市長

緑の大切さを実感しながら

迫でボーイスカウトが植樹を実施



サザンカを植樹するボーイスカウト

7月17日、迫老人福祉センターで、ボーイスカウト迫第1団による植樹が行われました。

この活動は、緑の募金活動の締めくくりとして毎年実施

しているもので、この日は、小学校低学年から中学生までのボーイスカウト9人が、来所者の方の目を潤すためにサザンカの苗木10本を丁寧に植えました。

参加した泉海輝くん（佐沼中1年）は「植樹をして緑の大切さを実感しました。暑くて大変でしたが、貴重な体験ができてよかったです」と話していました。

また、作業後はヨークベニマル佐沼店でユニセフ募金の活動も行い、皆さんの善意をアフリカ諸国に届ける橋渡しもしました。



飯ごうを使って「飯を炊きました

小学校生活最後の夏を満喫

石越で野外活動研修会を開催

7月23日からの2日間、石越総合運動場で、野外活動研修会（石越町子ども会育成協議会主催）が開催されました。

この研修会は、石越小学校6年生を対象に毎年実施しているもので、今年は36人の児童が参加しました。

1日目は、テント設営と夕食のカレーライス作りに挑戦。慣れない手つきで包丁を使って野菜を切り、飯ごうでご飯

を炊きました。子どもたちは「自分で作るとおいしいね」と何杯もおかわり。夕食後は、キャンプファイヤーを囲んでダンスやレクリエーションで楽しみました。

2日目は、解散するのを惜しみながらテントなどの片付け。子どもたちは、この2日間、日常生活で味わえない体験をし、小学校生活最後の楽しい夏を過ごしました。

ふるさとの環境を体験学習

平筒沼で水環境フォーラムを開催



いろいろな種類のトンボを捕まえようとする子どもたち

7月28日、米山町平筒沼「YOUYOUU館」で、水環境フォーラム（水環境フォーラム実行委員会主催）が開催されました。

米山町、豊里町内の小学校

高学年を対象に、平筒沼の自然や歴史を通じて、環境保全の大切さを学ぶことを目的に開催。7回目となる今年は、約60人の児童が参加しました。

子どもたちは、6班に分かれて平筒沼に生息する生き物を調査。虫取り網でトンボやメダカ、コイなどの稚魚を捕まえました。また、ペットボトルを使って、魚を捕まえる仕掛けも作りました。

活動に参加した鈴木健太君（豊里小4年）は「平筒沼にこんなにたくさん種類のトンボがいると思わなかった。とても楽しかったです」と話していました。



大きなオニヤンマを捕まえました